

GRIZZLY GRIPTAPE

トリー・パドウィルが自宅のガレージで作ったワックスからスタートしたというGrizzly Griptape。いまやトップライダーとなった彼が中心となり、Diamond Supply Co.から製産されている。ライダーにはガイ・マリアーノ、ポール・ロドリゲス、ライアン・シェクターなど、数多くのスーパースターが所属し、拠点となるロサンゼルスを始め、世界中で絶大な人気を誇るグリップテープだ。今回、ブランドのキーマンであるトリーとショーン・アブガーにグリスリーの歴史を教えてもらった。

photos_TAKAHASHI



Grizzly Griptapeの起源について教えてください。なぜグリスリーなの？

トリー・パドウィル (以下 T):Grizzly Griptapeは2001年にワックスのカンパニーとして始まったんだ。俺と友達で家のキッチンでワックスを溶かして、鉄のチョコレート型を使って自分たちのワックスを作ってたんだけど、その型の形がグリスリーだったんだ！Grizzly Greaseっていうブランド名でやってたよ。その熊の形と、「自分の家のガレージで作る」というスタイルはそのまま、Grizzly Griptapeを作ったんだ。グリップテープを切り抜くステンレス製の器具をゲットして、全部ホームメイドで、手作りでやってたよ。当時はまだガキだったから、ちょっとした楽しい小遣い稼ぎって感じだったね。

どこかのインタビューでははじめはグリップテープではなくてワックスを作っていたと聞いたけど本当？

T:グリスリー・グリースがすべての始まりだよ。超いいワックスだったよ！楽しんで作ってたし、おかげでどこへスケートしに行くにもワックスを切らさずに済んだ。そして最終的に友達の何人かをサポートするようになったんだけど、みんな気に入ってくれたから簡単な包装をしてローカルのスケートショップ(Skatelab、Valsurf)で売り始めたんだ。そうしてるうちにグリップテープを作るようになったんだよ。

ショーンとトリーとニックが出会ってビジネスにしようとしたきっかけは何？

T:ショーンのことは14歳のときから知ってるよ！いつも俺の味方でいてくれたし、スケートのキャリアについてもアドバイスをくれたりして助けてくれた。俺がプロスケーターを目指してそっちに集中するようになって、Grizzlyは止まって

しまったんだけど、そのうちショーンがDiamond Supply Co.のチームマネージャーになって、俺にニック(Diamond Supply Co.のオーナー)を紹介してくれたんだ。そのときに俺もライダーになったんだけど、まだGrizzlyを復活させることなんて考えてなかった。それからある日、ハリウッドのショーでニックに会ったときに、「俺のシグネチャーのハードウェアをDiamond Supply Co.から出さないか？」って言われたんだ。もちろん賛成したんだけど、そのとき彼に冗談で「グリップテープのカンパニーをDiamond Supply Co.と一緒に始めるのってどう？」って話してみたんだ。そして彼に口ゴを見せたら、「やろう。」って言ってくれた。最初は信じられなかったけど、その後すぐに本当にビジネスが始まったんだ。ショーンはいつも俺のことを助けしてくれるし、Grizzly Griptapeを立ち上げるために110%の力で動いてくれたよ。

ショーン・アブガー (以下 S):トリーがまだ子供だったころ、彼はよく俺の家のソファで寝泊まりしてた。まだ車を運転できる年じゃなかったから、全ての(シミ)パレーのスポットにアクセスできる俺の家にいるのが一番よかった

んだ。ニックとは知り合って15年くらいたつよ。初めて会ったのは、かなり昔のガールとチョコレートのデモのとき。それ以来友達だよ。ここ5年、俺はDiamond Supply Co.で働いてて、Diamond傘下でGrizzly Griptapeを立ち上げる仕事をしたよ。

グリップテープってそんなに単価の大きな物ではないよね？あえてグリップテープをブランドにした真意は？

T:Grizzly Griptapeはずっと、楽しいからってことと、スケートに対する愛でやってるんだ。子供のころは、板にグリップテープを貼ることも幸せだったし、楽しかった。スケートできるっていう喜びでテンション上がるし、楽しいんだよね。それにグリップテープでできることって無限大だし、スケーターは全員グリップテープが必要だからね。

Diamond Supply Co.もそうだけど、他のハードやアパレルブランドなんかよりも沢山のライダーを抱えているけど、これには何か深い理由はあるの？

S:俺たちは友達が多いからね(笑)。自然と今のようにな

きくなっていったんだ。別に計画的にチームを作ったわけじゃない。ただ楽しんでやってただけで、そうしてるうちにアパレルも始まったんだ。プロモデル・グリップテープも作るようになったし、たくさんの人が喜んでくれる。Grizzly GriptapeとDiamond Supply Co.ってのはユニークな会社なんだよ。

ライダーはどういった形で決まるの？今何人いる？

T:簡単だよ(スポンサーするのは)。Grizzly Griptapeをカッコいいと思ってくれて、なおかつ一緒にスケートして楽しいやつだよ。ライダーは俺が声をかけてチームに入れてるよ！全員ね。立ち上げたときよりも今はチームがずっと大きくなった。グリスリー・ギャングさ。

日本人が直接ライダーになるチャンスはあるかな？

T:もちろん。小島優斗はGrizzly Griptapeの初期からのライダーだよ。ライダーとして申し分ないし、スケート愛だよ。現時点では日本人ライダーは彼だけだけど、常にライダーは探しているよ。近いうちに日本に行って新しいライ

ダーをスカウトできたらいいな！

S:日本は俺たちにとって大きなマーケットになると思う。デザインなんかで日本から沢山インスピレーションをもたらしているしね。グリスリー・アウトドア・コレクションも日本で展開が始まるってし、新しいプロジェクトを日本で始められたらいいなと思ってるよ。

やはり、スケート・ブランドといえばチームの色がわかるようなビデオを作る事も醍醐味だと思うんだけど、チームとして何か映像は作っているのかな？

T:ビデオプロジェクトについてはいいアイデアが沢山あるんだ。ライダーがたくさんいるから、プロジェクトを分けたりして、よりクールなことができる。

ショップオープンおめでとう。このショップはGrizzly Griptapeのヘッドショップと考えて良いのかな？どういった物がお店で買えるの？

S:ありがとう。俺たちも興奮しているよ。お店では、リミテッドものやスペシャル・プロジェクトのものも含めて、

Grizzly Griptapeの全コレクションを見ることができる。所属ライダーのプロモデル・ハードグッズも可能な限り置くようにしてる。お店に来たキッズは、そこで自分の好きなプロのボードを組めるんだ。クールだと思うよ。トリーが全部の板にグリップテープを貼ってくれるかもね(笑)。

噂によると日本にも近い将来ショップを作りたいって言うてるお聞きしましたがどうなんでしょうか？

S:そうなるといいね(笑)。

ライダーみんなと日本に来る予定はありますか？

T:Grizzly Griptapeのツアーでいつか日本に行きたい！まだ日本には行ったことないし、日本の素晴らしいスポットで滑れたら最高だと思うよ。
S:いつか必ず日本に行くよ。

Grizzly Griptapeの来年の展望は？

T:でっかいこと。
S:#grizzlygang でチェックしてくれ。



Torey Pudwill, kick flip.